

「神奈川イヤー」の予感とともに
幕を開けた2018年の県内スポー
ツ界は、新年から勝負の世界の厳し
さを痛感させられることとなった。

元日のサッカー天皇杯決勝で横浜
F・マリノスが逆転負けを喫して4
大会ぶりの優勝を逃すと、2、3日
の箱根駅伝では優勝候補に挙がつて
いた神奈川大が13位と失速。続く全
国高校ラグビー大会では、初の単独
優勝を狙った桐蔭学園高が準決勝で
涙をのんだ。

社説

[2018.1.12]

展望 スポーツ

「神奈川イヤー」到来を

元日から小紙で始まった連載で、
前巨人監督の原辰徳さんが「悔しか
った試合はまったくくない。負けたら
次がある。すべて新しいステップに
つながる」と、前向きな言葉で高校
時代を述懐していた。その通り、選
手たちに立ち止まる時間などないで
あろう。

マリノスの天野純選手は天皇杯決
勝で敗れた後、「もつとマリノスに
期待してもらっていい」と語り、昨
年退団した元日本代表中村俊輔選手
（磐田）の後継者として自らにプレ
ッシャーをかけた。神奈川大や桐蔭
学園高も新チームが既に動きだして
いる。卒業する選手を含め、次のス

ページでの飛躍を応援したい。
今年もスポーツ界のビッグイベン
トがめじろ押しだ。

平昌冬季五輪開幕まで1カ月を
切った。フィギュアスケートの羽生
結弦選手、ノルディックスキー・ジ
ヤンプの高梨沙羅選手、スピードス
ケートの小平奈緒選手らメダル候補
の活躍はもちろん、県勢ではスピー
ドスケート・シヨートトラックに出
場する相模原市出身の斎藤仁美選手
と弟の慧選手が注目される。横浜市
出身の大日方邦子さんが選手団長を
務める平昌パラリンピックも世界に
大きな感動を届けてくれるはずだ。
6月にはサッカーのロシアワールド

ドカップ（W杯）、夏の全国高校野
球選手権は100回大会の節目を迎
える。そして、19年ぶりに日本シリ
ーズに出場した昨秋の熱気がますま
す高じているのがベ이스ターズだ。

若き左腕王国に「昨年の今永昇太
投手、昨年の浜口遥大投手に続いて、
東克樹投手（立命大）」という即戦力
が加わった。ラミレス監督は休暇先
の米国から元日に帰国する気合の入
れようで、「自分自身に活を入れ、
上のステージに行く」と、20年ぶり
の優勝に向けた強い意欲を披歴して
いる。

「神奈川イヤー」の到来を多くの
県民とともに願っている。